

「遠近」(をちこち)

隔月刊「遠近」(をちこち)は、
日本で唯一の国際交流専門誌です。

◆「遠近」の名称は、「あちこち・ここかしこ」「未来と現在」を意味するやまと言葉に由来しています。日本語・日本文化を海外に知らせ、もっと諸外国との相互理解を深めたい、また、「国家と国家」だけでなく「人と人」を結ぶ文

化の掛け橋としての役割を果たしたい。そんなジャパンファウンデーションの想いを込めています。毎号、特集テーマを設けて文化交流に関する記事を組み、エッセイ、対談等のほか、ジャパンファウンデーションの活動紹介記事等を掲載しています。山川出版社刊。購読お申し込みは山川出版社 Tel:03-3293-8131 Fax:03-3292-2994まで。

<2005年度に発行した遠近の特集>

- ◆第4号(2005年4月)……「アメリカと向き合う」
- ◆第5号(2005年6月)……「知られざるアラビア世界」
- ◆第6号(2005年8月)……「日本語で話ませんか」
- ◆第7号(2005年10月)……「アートが世界を変える」
- ◆第8号(2005年12月)……「市民が広げる日・EU交流」
- ◆第9号(2006年2月)……「日中交流を歩む人々」



主要書店で発売中!
定価:500円(税別)

ISBN: ◆4号…634-58022-5
◆5号…634-58023-3
◆6号…634-58024-1
◆7号…634-58025-X
◆8号…634-58026-8
◆9号…634-58027-6

ホームページ・メールマガジン・ブログによる情報発信

○ジャパンファウンデーションホームページ

www.jpff.go.jp

ジャパンファウンデーションのすべてと、
国際文化交流の情報を。

◆ジャパンファウンデーションについての最新の情報が得られるホームページです。イベントカレンダーや、海外事務所サイトへのリンク、データベースへのリンクがあります。



○メールマガジン

全世界のジャパンファウンデーションの
最新情報をあなたのメールアドレスに。

◆ジャパンファウンデーションの最新ニュースをお届けします。ホームページからお申し込みができます。和文版と英文版があります。

○ブログ「地球を、開けよう。」

d.hatena.ne.jp/japanfoundation

若手職員の生の声を伝えます。

◆ジャパンファウンデーションの職員が国際文化交流の現場から、最新情報をお伝えしています。



JF Supporters Club

JFサポーターズクラブ

ジャパンファウンデーションを、もっと身近に。

◆ジャパンファウンデーションの活動をもっと身近に感じていただくため、2004年10月、JFサポーターズクラブが発足しました。年会費としてご寄附いただく金額に応じて、パートナー、アソシエイト、フレンド、グループの4コースがあり、それぞれ特典内容が異なります。

会員専用ウェブサイト、メールマガジン、毎月お送りする印刷物でジャパンファウンデーションの活動をお知らせします。ジャパンファウンデーション主催の有料イベントへのご招待、入場割引などもご提供しています。また年1回、海外におけるジャパンファウンデーションの活動に直接触れていただくため、会員をボランティア特派員として派遣しています。

アソシエイト、パートナー会員には隔月刊の国際文化交流専門誌『遠近』が送付されるほか、バックナンバーをウェブ上でご覧いただけます。また、JFICライブラリー

ーで本の貸し出しを受けられ、ライブラリー内ショップではジャパンファウンデーションの出版物などに会員特別価格があります。

2005年には、会員向けに津軽三味線奏者佐藤通芳氏の演奏会、詩人アーサー・ビナード氏の講演会を東京で開催しました。また、ボランティア特派員を、北京日本学研究中心設立20周年記念国際シンポジウムに派遣、中国における日本研究の広さと深さに触れ、その模様を報告していただきました。

JFサポーターズクラブはこれからも、みなさんとジャパンファウンデーションを結ぶ場として、より魅力的な活動を展開していきます。あなたのご参加をお待ちしています。



www.jfsc.jp

ジャパンファウンデーションボランティア (JFボランティア) 制度

あなたの力を、国際文化交流のために生かしてください。

◆海外での日本文化に対する関心が高まり、また、国内では国際文化交流分野でボランティアとして貢献したいという希望を持つ方が増えています。ジャパンファウンデーションは、こうした要望の橋渡しをしています。

海外の日本語教育機関で日本語を教える「海外日本語教育指導助手」や、海外の友好団体などで日本との文化交流事業の企画運営業務の補助を行う「文化交流企画運営補助」、海外の大学・大学院の日本

研究講座で講義や指導を行う「シニア日本研究客員教授」の各分野があり、2005年度は21名の方々ボランティアとして海外に派遣されました。



●エジプト日本語教育振興会でのボランティア文化交流企画運営



●ベルリン日独センター派遣企画運営補助文化交流企画運営

みなさまに、情報を提供するために、より使いやすくなりました。

◆「国際交流基金図書館」は「JFICライブラリー」として、2006年4月1日にリニューアルオープンしました。日本研究や国際文化交流の蔵書・視聴覚資料をご利用いただけます。

開館時間：平日午前10時から午後7時まで、毎月第3土曜日午前10時から午後5時まで（開館日については、ホームページ等でご確認ください）Tel. 03-5562-3527

JFIC Library



情報を開く

全国の国際交流団体との協力

国際交流フェスティバルに出展しています。

◆ジャパンファウンデーションでは、全国で開催されている国際交流イベントに参加しています。イベント会場では、ポスターや映像を使ったジャパンファウンデーションの事業紹介やインターネット日本語試験「すしテスト」のデモ体験、また公募事業に関する相談も行っています。

2005年度は仙台国際センターまつり、グローバルフ



ェスタJAPAN2005(東京)、とちぎインターナショナルフェスティバル2005、ワールド・コラボ・フェスタ2005、地球市民どんたく、横浜国際フェスタ2005(大阪)、むさしの国際交流祭、さいたま新都心街びらき5周年記念「秋祭り&国際フェア2005」、ヨーロッパ秋まつり in 日比谷、ワンワールドフェスティバルなど計8都市10回の国際交流フェスティバルへ参加しました。

国際交流団体調査

◆国内の国際交流の現状を把握するため、国内の国際交流団体の調査を行いました。2005年度にアンケート形式で調査を実施し約2,000団体から回答を得ることができました。調査結果の概要はホームページ(<http://www.jpfc.go.jp/j/jfic/katsudo/index.html>)からご覧になれます。



京都支部 Kyoto Office

◆ジャパンファウンデーション発足と同時にその支部として開設された京都支部は、関西地区の関連団体とのネットワークの構築に取り組む一方、日本研究フェロウシップによる長期招へい者のうち関西に滞在する者に対するフォローや、様々な自主事業を行っています。

関西地方での国際交流事業はますます盛んになってきており、また各国際交流活動団体のネットワークが進んでいます。京都支部でも、外部の諸団体と連携を深めています。また、図書室をベースに国際文化交流情報を提供しています。図書室には6,659冊の蔵書とAV資料を備えています。

2005年度にはフェロウ勉強会を関西地区で18回実施したほか、1973年から恒例の催しである「国際交流の夕べ:能と狂言の会」(京都観世会館)を実施しました。また日本料理アカデミーと共催で関西地方で日本料理の研修を受けたフランス料理界の若手料理人5名の公開ワークショップを行いました。



Global Citizenship 地球市民賞



地域に根ざした国際交流を行う団体に、「地球市民賞」を授与。

◆ジャパンファウンデーションでは、地域に根ざした国際交流を行う団体を顕彰しています。1985年に国際

交流基金地域交流振興賞として設けられ、第20回目の2005年度に賞の名称を「国際交流基金地球市民賞」に改めました。



2005年度は、次の団体・個人が受賞しました。

**特定非営利活動法人
チェルノブイリへのかけはし**（北海道）
（代表 野呂美加氏）

◆旧ソ連のチェルノブイリ原発事故で被災したベラルーシ共和国の子どもたちを日本に招へい。北海道で1カ月の転地療養をさせる「里親運動」を14年にわたり実施しています。



浅賀正治氏（茨城県）

◆私費を投じてジンバブエやブルガリアからの石彫刻家を招くなど、石彫を通じた国際文化交流を実施。個人から始まったアーティスト・インレジデンス事業が地域の自治体や地場産業からの支援を得て、広がっています。



Genki青年会（高知県）
（代表 ダニエル・ロックマン氏）

◆JETプログラムに参加した青年の個性と才能を活かした土佐弁ミュージカルの創作・上演。上演にあわせて募金活動を行っており、県内の日本人の語学留学希望者への助成金に充てられています。

今後の国際交流の参考となる各団体の実績を書籍で紹介。

◆「地域交流振興賞」の受賞団体の中から、31団体の活動を紹介する書籍が発刊されました。

留学生支援、日本語教育支援、文化・芸術交流、青少年交流、国際協力、国際理解教育、多文化共生支援、福祉、地域活性化、ネットワーク形成…。本書で紹介されている各団体の活動実績には、今後の国

際交流活動の参考となる数多くのヒントが隠されています。

- 鹿島出版会
- A5版、並製、181頁
- 定価 本体 1,600円 (税込 1,680円)

「クロスボーダー宣言」 Cross Borders



情報を開く

EU・日本創造都市交流2005

◆「2005年日・EU市民交流年」の一環として、ブリティッシュ・カウンシル、イタリア文化会館、アイルランド大使館、東京・横浜・日仏学院、フィンランドセンター、東京ドイツ文化センターのEU6か国の日本にある文化



●英国ゲーツヘッドでの調査

交流機関、横浜市を始めたとする7つの地方自治体、そして9つのアートNPO団体が協働して、調査、交流事業からシンポジウム開催につながる一連のプロジェクトを実施しました。

「創造都市(クリエイティブシティ)」とは、経済や社会の構造変化により一旦衰退した都市が創造性やアート、文化によって新しい産業や活力を生み出すようになるという概念です。市民が創造活動を体験したり参加したりすることにより、表現能力やコミュニケーション能力が引き出され、地域全体の創造力、活性

化にもつながっていくという意味も含まれています。

まず、日本各地のアートNPOの代表と地元自治

体担当者がペアを組み、アートによる地域活性化で成果をあげているEU6か国の代表的な都市を訪問。各地の成功事例を調査し、関係者との意見交換を行いました。次に、EU各国からアートプロジェクトの実践家や行政担当者を日本に招へいし、国内7都市で交流を行い、前後してEU各国のアーティストによるワークショップも開催しました。最後に、日本・EUの参加者が集まり国際シンポジウムを横浜で開催し、都市におけるアートの役割、アートと市民、自治体の関係、NPOの役割についてなど、活発な意見交換が行われました。

この一連のプロジェクトの成果は単行本としてまとめられ、『アート戦略都市—EU・日本のクリエイティブシティ』(国際交流基金編、鹿島出版会発行:ISBN4-306-08507-4)として出版されました。



ジャパンファウンデーションの見学

**ジャパンファウンデーションへ行ってみよう!
職員の海外での経験談なども聞けます。**

◆ジャパンファウンデーションでは修学旅行生や、国際交流に関心のあるグループの見学を受け付けています。2005年度には、67組のグループの訪問を受け付けました。

本部(東京都港区赤坂)での修学旅行等の受け入れは、平日の10時~12時、14時~17時に行っています(所要1時間程度、人数:最大20名程度)。事前にどういったことを知りたいのかについて質問票を提出していただき、可能な限りご要望にお応えした受け入れプログラムを準備します。(例:紹介ビデオ15分、事業全般に関する説明15分、質疑応答15分、オフィスや図書館の見学15分。)

日本語国際センターや関西国際センターの見学も受け付けています。



お問い合わせ先:

情報センター 03-5562-3538

日本語国際センター(埼玉県さいたま市)総務課 048-834-1181

関西国際センター(大阪府田尻町)総務課 0724-90-2601